

後藤田氏

公約修正見解ただす

首相「方向性は維持」

予算関連法案が審議入りした15日の衆院本会議で自民党の後藤田正純氏が質問に立ち、マニフェストの修正などをめぐり菅直人首相の見解をただした。

後藤田氏は「マニフェストについて」（最低保障年金や高速道路の無料化など）数兆円単位の『違反』を『修正』という言葉で言い逃れしようとしている」と指摘した。

これに対し、首相は「既に多くは実行、着手している」と強調しながらも「方向性は維持すべし」と主張した。後藤田氏が「世論は（マニフェストで掲げた）看板政策を見直し、早期解散を求めている」と主張したのに対し、首相は「今やらねばならぬのは予算を成立させ、社会保障（と税の一体改

革）を議論することだ。解散は全く考えていない」とした。

相も追及。

与謝野氏は「政権発足時は具体的道筋が見えず、6月に財政戦略や新成長戦略が作成された。首相

は正面から日本の将来のために改革に取り組もうとしている」と述べた。
(武田浩文)



マニフェストの修正などをめぐり首相の見解をただす後藤田氏＝衆院本会議場